

## 「気圧を実感する」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

空気は透明で、通常は味も臭気もない。しかし、気圧は場所によってちがう。海拔 0 付近ではおよそ 1 気圧だが、人間の体は 0.8~0.75 気圧程度までなら、ほとんどの人は順応できるので、「空気が薄い」という実感は持てない。ところが、旅行をしていると、それを実感できる場面に、時々出会うことがある。



運動会の代休に、北軽井沢に友人が来たので、湯の丸山の麓の地蔵峠に、ソフトクリームを食べに行った。「巨峰ソフト」がおいしいのだ。写真は地蔵峠のスキーゲレンデ。湯の丸山への登山コースの一部だ。



海拔は 1732m。信濃川水系と利根川水系を分ける、中央分水嶺上に位置している。



売店のスナック菓子売り場を見て、驚いた。高原は気圧が低いので、こうなるのは物理的事実なのだが、わかっていても、いつも驚いてしまう。

海拔 0 の場所(東京の低地)に比べて、海拔 1700m の場所では、気温は 10~11℃低下、気圧は 0.82 気圧程度に低下する。この程度の気圧低下では、人体は影響を受けず、「気圧が低い」ということを実感できない。しかし、もともと内容物破損防止の為に、たくさんの空気を封入してあるポテトチップスは、体積が約 1.2 倍に膨らんで、気圧の低さを実感できる。富士山頂(約 0.65 気圧)では、破裂するかも知れない。



減圧室でもない限り、こんな実験はなかなかできない。私はこの「しろえびポテトチップス」を買って、東京まで持ち帰ればよかったと後悔した。きっとしぼんでゆく様子を観察できただろう。逆に、林間学校の時に、密閉した袋を東京から持参すれば、膨張する様子を観察できて、きっと面白い実験になるだろう。